

## 子牛へ複数の粗飼料を給与し自由に食べさせると摂取量が増加

粗飼料多給で育成した子牛は、肥育すると枝肉重量が大きくなるため子牛市場で高く取り引きされている。しかし、濃厚飼料に比べて粗飼料を多く摂取させることは容易ではない。そこで、粗飼料の摂取量を増加させるための給与方法を検討した結果、複数の粗飼料を自由に食べさせるカフェテリア方式の給与で摂取量を増加させることができた。

### 内容

3～8カ月齢の子牛に単独又は複数種の粗飼料を自由に食べさせ、それらの粗飼料摂取量を調査した。単独区は子牛に一般に給与されているチモシー乾草のみを給与し、複数区はチモシー乾草、オーツヘイ、粉碎ヘイキューブ及びペレニアルライグラスストロー（以下「ペレニアル」）の4種類の粗飼料をカフェテリア方式で、自由に食べられるよう給与した。濃厚飼料は5カ月齢までは体重の1.8%、6カ月齢以降は1.5%に制限して給与し、5カ月齢で離乳した。

いずれの日齢においても、粗飼料の摂取量は常に複数区が多く、試験期間中の粗飼料総摂取量は複数区が単独区の約1.3倍であった（図1）。

複数の粗飼料を給与した場合、子牛が摂取した粗飼料の種類は日々変化した（図2）。ほ乳期間中は、ペレニアルの摂取割合が高く、全体の約50%を占めた。離乳後は約1週間でペレニアルの摂取割合が全体の約5%に減少し、チモシーやオーツヘイの摂取割合が増加した。試験終了時の240日齢にはチモシー1：オーツヘイ2の割合で摂取した。

粗飼料の摂取量を増加させるためには、特定の粗飼料にこだわらず、日々変化する子牛の嗜好に対応できるように複数給与することが望ましいと考えられる。

### 普及上の注意事項

粉碎ヘイキューブを多給すると軟便になることがあるので、1日当たり約2kgまでとするのが望ましい。

吉田 恵実（北部 畜産部）  
（問い合わせ先 電話：079 - 674 - 1230）



4種類の粗飼料の給与風景

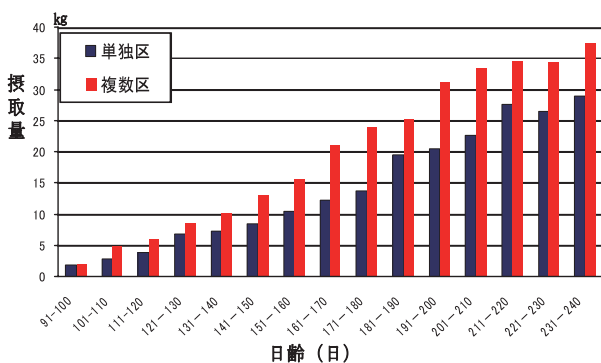


図1 10日ごとの粗飼料摂取量の推移

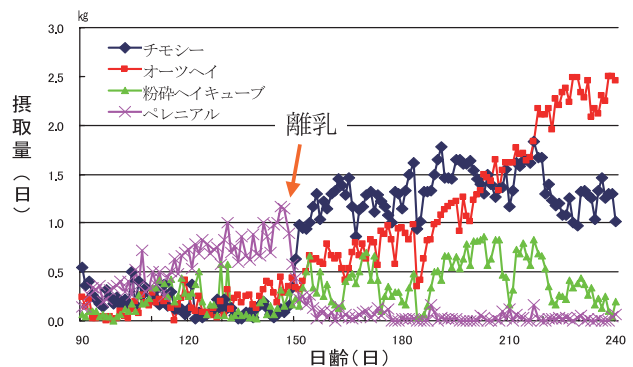


図2 4種類の各粗飼料摂取量の推移